

第10回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成20年6月30日（月）

午後2時～午後4時20分

場所：伏木富山港湾事務所新湊出張所

みなとふれあい館

事務局：ただいまから、第10回新湊みなとまちづくり戦略会議を開催いたします。

事務局：～出席アドバイザー、随行者、委員の紹介、新委員あいさつ～

事務局：ありがとうございました。それでは、事務局を代表いたしまして、産業経済部長がごあいさつを申し上げます。

事務局長：委員の皆さん、本当にお忙しい中、今年度最初の戦略会議ということでお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。誠に失礼ではございますが、お席に今年度の委嘱状を置かせていただきました。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

また、アドバイザーといたしまして、国のほうから企画調整課長さん、県港湾空港課の課長さんにもご出席を賜り、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

先週の水曜日ですが、こちらの窓から見えますように、新湊大橋の下部工事の主塔の据付が行われました。朝7時半前から準備が始まりまして、私どもも見に行ったのですが、本当にめったに見らないような大きな工事でありまして、本当に印象に残っています。また、これを目指して、本当に大橋の完成が近づいているということと、景色が変わってくるということを実感いたしました。さらに、景色が変わることは、われわれの今後の課題といえますか、新湊まちづくり方策に基づいていろんな事業をどんどん進めていかなければならないということを本当に感じたところであります。そういうところもありまして、委員の皆様には引き続き新湊みなとまちづくり方策の実現に向けてよろしくお願いしたいと思います。

今年度はいろいろ課題があるわけですが、今日のレジュメにもありますように、富山新港景観計画、それと海王丸パーク賑わい創出についてということで、充分議論をしていただいて、少しでもいい方向になるようにやっていきたいと

思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上であります。

事務局： それでは、レジュメに沿って進めさせていただきたいと思います。今回は富山新港の景観について協議していただくことから、はじめに現状の確認ということで、富山新港の周りを視察していただきたいと思いますと考えております。当初、船を予定しておりましたが、波が高くて伏木のほうからこちらへ来られないということで、車での視察に変えさせていただきます。お荷物は車のほうで結構ですので、車のほうへ移動願います。

事務局： それでは皆様にお配りしました、周辺視察日程に基づき行います。配車はそちらに書いてございます。下に職員がおりますので、ご案内いたしますので、下のほうに降りていただけませんか。

～ 元気の森公園、P 2 3 視察 ～

事務局： 皆様お疲れ様でした。それでは議事に移りたいと思います。委員長よろしくお願いいたします。

委員長： 今年度も引き続きよろしくお願いいたします。前年度の終わりに、あれも必要じゃないか、これも必要じゃないかということで、まだまだやることはあるんじゃないかということは皆さんから出していただきました。事務局と私で相談をしまして、ひとつは景観の問題、中でも色彩の問題、もうひとつはいろいろ出たものをまとめると、海王丸パーク、あるいは東側の賑わい、これを、こういうものもあるんじゃないか、ああいうものもあるんじゃないかというものを出し合って議論をしたほうがいいんじゃないかと。こういう二つにまとめてみたわけです。それで、今回は最初の会議でありまして、今まずは景観の問題、中でも色彩のところで、現場を視るという作業を組み込んだわけがあります。それで、この前事務局のほうから広島港の様子だとか、いわゆる景観に取り組んでいるところの話がありましたけれども、かなり駆け足でやりました。それも含めてですね、事務局のほうから景観の問題について既定の知識提供をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局： それでは私のほうから簡単に資料No.1の説明をさせていただきます。富山新港の景観（色彩）計画についてということでございます。まず、新湊みなとまちづくり方策の中で景観や色彩についてどのように触れられている

かということをご説明いたします。まず、冊子になりますが、8 ページに景観を活かした機能配置ということで、読み上げさせていただきますが、「臨海部の魅力は、帆船海王丸、新港大橋、そして3000メートル級の山々が連なる立山連峰などが織り成す景観であることから、機能（施設）を配置する際には、これらの景観を活かした機能配置が必要である。また、臨海部における良好な景観の形成に向け、可能な限り多くの緑地を配置するとともに、施設周辺についても積極的な緑化を行い、緑あふれる景観の形成を図る必要がある。」とあります。また、21 ページには、新湊大橋の景観に係る方針として、全体のコンセプトが、「伏木富山港の古き良き伝統を踏まえ、21 世紀の環日本海地域の新たな象徴、交流と安らぎの場を創出する橋梁デザイン」と意義付けられています。そして、15 ページになるのですが、各事業を進めるにあたっての前提事項として、「東西埋立地の魅力の基盤は新湊大橋と海辺の環境からなる景観であり、大橋はその中核となるものである。そのため、各導入機能における施設計画を進めるにあたっては、大橋の景観のコンセプトを踏まえた景観基本計画を策定し大橋を中心とした良好な景観形成を図っていく必要がある。」とあります。2 番ですが、色彩と景観の関係のイメージはそういった形になると思います。景観の大きな枠の中に例えば配置でありますとか、形態、そして色彩が含まれているというのがイメージです。富山新港の場合、景観のポイントは方策の中に書いてありますように、3 つ考えられると思っております。1 つ目は新湊大橋です。今ほど橋脚の主塔下部の部分を見ていただいたように、白が基本の色になっております。次に港内にある賑わい空間として、海王丸パークがございしますが、帆船海王丸がイメージする色はやはり白い帆であり、白ということであります。そして、遠くから眺めるにあたってはやはり、海王丸、新湊大橋そして、後ろには白い雪がかかる立山連峰ということで、こちらも白という色が考えられるのではないかと思っております。資料の裏面をご覧ください。計画策定の必要性については、もちろん方策に書いてあるということはもちろんなのですが、新湊大橋を含めた魅力ある港湾空間の形成ということで、工業港湾のイメージから、人々が賑わい、集う、そして憩いを求めるみなと空間への変化が必要ではないかということでございます。5 番、関連の景観条例等に関しましては、富山県の景観条例の抜粋を資料として添付してございますので、ご覧ください。6 番目が、委員長との打ち合わせの中では、戦略会議としての取り組みとして、富山新港の景観のポイントである新湊大橋の「白」、そして海の「青」を基本とした色彩を検討して県や市に対して提案すればどうかというのが、現在事務局として委員長との打ち合わせの中で考えました戦略会議としての取り組みになります。7 番は参考例としてある港の景観の一例です。色彩

計画に基づいて、塗り替え時に配色を変化させた例として添付してございますので、ご覧いただければと思います。また、参考として前回もお配りしましたが、広島港の色彩計画を添付してございます。皆様方には今日の視察も含めていろいろな意見を出して、それをもとにとりまとめを行っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

委員長： どうもありがとうございました。景観についておさらいになってしまうのですけれども、今事務局のほうから説明をしてもらったものを主としてそれを読んでもらった新湊みなとまちづくり方策という形で正式に平成17年3月に答申をして了解をいただいたものであります。この中に景観についてもあちらこちらに載っておりまして、基本的にそれからあまり外れない方向で動いているのではないかなという感じがいたします。一番大きなものは、私もからんでおったのですけれども、新湊大橋の技術検討委員会という大きな委員会がありまして、そこでもやっぱり景観の専門家も入って現在のような大橋、先ほど事務局から説明がありました、この中にも白を基調とした立山連峰を活かすような考え方、それから富山湾という海、それから、付近の町並みとの関係ということで先ほど読んでいただいたような新湊大橋についても配慮されたものが進んでいるというように理解しております。それから広島港についてはこの前ご説明しましたとおりであります。それから広島と同じように国の港湾局関係がよく例に出すのが清水です。清水についてもこの広島と似たような形で、清水のものを持ってきたのですけれども、これは2007年か2008年の、こういう状態ですね。これも工業港、広島と同じようにがちゃがちゃな、くすんだ工業港、それから赤白が目立つような、煙突だとかいろいろたくさん立っている。やっぱり富士山をどのように活かした清水港にしていくかというものが課題で、かなり長い時間をかけてやっており、これも参考になる。現在の状態はこういうように、やはり、ガントリークレーンも白を基調にしておさまっているようなんですね。ただ、もっていきかたは広島と似たような形で持っていておりますが、平成2年ぐらいから始めて、10年間ぐらいかけてじわじわと関係企業だとか、それから市民だとか議論を積み上げて、ほぼなんとなく落ち着く方向にいつている。そういう進め方をしているようなことがいろいろ書かれております。これを今、むしろ売り物にしながら観光のほうで清水はやっております。広島もほとんど似たような形で、長い時間をかけてやっているように、先進のところはやっているように思います。あとは、考えるにあたって、平成14年に富山県の景観条例というものが皆さんのところに配布されたものがございますね、すでに富山県も景観の問題で条例を作ってますね、

基本的にその中身は一定の大きさのものを作るときに届出をして、県の指導を受けるという仕組みになっているようです。高さの問題、それから色合いの問題も入ると思いますが、それから、その建物の配置の問題、形状の問題、そういうようなものを書いてありますが、色は何にせよとかそういうようなものは特にここには書いてごさいません。ただ、県自体もすでに景観条例をして届出に基づいて指導に入っていると、いうことは知っておかなければならないと、またこれを読んでいただければと思います。それで、ここでの進め方なのですが、今日は2時間ということで4時には終わりにしたいと思うのですが、あと20分くらい各委員から、この富山新港を今みていただいて、やっぱり景観、特に色彩を中心に何か気づいた点、これはこうであった方がいいのではないかとというようなものを各委員から出していただいて、それはまた事務局のほうで記録していただきます。それであと賑わいも含めて、次回以降また作業委員会を作って一定の報告書に結び付けていければと思います。今日は今年度第1回ということで、いろいろな委員の考え方を出していただき、もう20分か30分とりたいと思います。その後賑わいの問題のところへ行きたいと思います。ということでざっくりばらんにひとつ戦略会議らしい方向に今年度は議論をして進めていけたらと思います。目的はすばらしいみなどですね、県もそれでこう賑わいが、それから旧市街のところとの結びつきがぐっといってくれば、というそれが戦略なんですね。それに結びつくような形で、今日はまず見た点で気づいた点だとか意見を各委員から出していただきたいと思います。

委員：私は2点思ったのは、まずガントリークレーンですね、赤白のですね、火力発電所が青白になっているでしょ、ですからああいうふうにするべきではないかと。それから新港の周りの工場、あれ大谷製鉄ですかね、あそこの屋根が汚いのが目に映る。なんかやっぱり一工夫いるのではないかと。これは企業様にお願いしないといけないと思うんですが。

委員長：さっき火力発電所の煙突が青白になっていますね、それは航空法で決まっているのかどうか、県の課長さん、ご説明お願いします。

港湾空港課長：航空法によって例えば地上何千メートル以上のものについては目立つような、例えば赤白にするだとか障害灯をつけるとか、そういったものが決まっております。決まっておりますけれども、実際一般的には赤白を使われておりますけれども、それが決まっているわけではなくて、例えばそのあそこの煙突の場合は、やっぱり周辺の景観を考えて、青にしたりといったよう

な形で航空局の方と協議をするんです。協議をしないとやっぱり認めてもらえないので、協議をすればある程度赤白にこだわらずに、自由な色ではないのですけれども、目立つ色にはしなければならないのですが、赤白にはこだわらないといったようなことにはなっています。やはりそうするときにはかなり地区としての計画があるとかですね、思いつきで自分の好みでやるということではなくて、ある程度そういうような計画があって話を進めたほうが進めやすいのかなと。県の場合は誠に申し訳ないのですが、ああいう色で、もともと県のガントリークレーンは新品ではなく中古のものですから、塗り替えも考えていませんでしたし、もとあった色そのままでおいてあるわけですが、できればガントリークレーンの色も検討していただいても。県の立場でこういうのもなんですけれども。ちょっと個人的な意見も含めて、ある程度地区の色彩計画というものがきちんとしていればですね、もっと協議しやすいのではないかと思います。

委員： 県は今年ガントリークレーン新品のものを作られるのでしょうか。そしたらその前にどこかで意思統一しておかないと、赤になってしまうとまた大変なことになってしまう。私のほうから言わせてもらおうと、そういう建物は当然白とか青とかになるのですが、もうひとつこのみなとに決定的に欠けるのは「緑」。ここに皆さん来られるとき松並木がずっとあるんですよ。こういう景観というものは例えば客船バースの南側にずっとほしいなと。それが木陰にもなり、人が寄るところにもなるんですよ。それから、その緑が逆に言うと写真のポイントにもなるわけです。そういうところを、植栽計画を今からしっかりたてないと後でだめだなと。今日もちょっとあそこにあがりましたが、パークゴルフ場の横にあったシラカシが全部枯れているんですね。ああいう木もやっぱり選定するときに、松なら松に決めたほうが潮風に強いよと。もう実証済みなんだから。そこらへんを何とかしておかないと手戻りになったり、あるいは将来的にあらっという問題なったりするとだめだなということで、ちょっと専門家も入れながら植栽計画も本当にはいったらどうですかね。私はそう思います。

委員長： どうもありがとうございます。これを作ったときも確か国からのいろいろな意見があつてですね、海の森、海辺における森づくり政策という、かなり強調されていて、この中にもそれは書いてあるんですね。だからこれに沿うものだし、やっぱりそれは強調しなければならないということなんですね。今見たところでも、パークゴルフ場から見ると前が緑だからなんとなく全体がよく、緑という意味ではね。

委員：芝生は緑で覆われているので、上の緑はないんですね。だからもっとその、下も大事だけど、上の緑がほしいんです。大きくなる木だね。

委員：やっぱり確かに。風が強かったし、今の時期に行ってちょっと寒いねって言っていたんです。真夏ならいいのかねって、年寄り連れてくるとき、それはちょっと思いました。やっぱりちょっと影になるところがあるといいなと思いました。

委員長：他に何か。感じでいいですから。みなとの周りの民家の屋根と壁だとか、別に統一性はないんだけどもえらく落ち着いた今の、なんかひどい状態ではないようには見えたんですけどね。

委員：これはね、木造で独特のものがあるからある程度見られるんです。これが現代流の外壁ばかりになってくると合わないかもしれない。

委員長：今の状態は合っていますね。これがまた、外国人が住み着いて自分たちの家を建て始めたら、とんでもない色の家が出てくる可能性が今後もみなと近くにあるんじゃないかなと思うんで、今の雰囲気は大切にしたいなという感じがします。何か出していただけませんか、感想を。

委員：回っていきますと、三協とか富山軽金属とかもそうですけど、だいたい火力の煙突に合わせて青いストライプを入れたり、考えておられたのだろうと思いますけれど、白色とかコンクリートの色とかにはなっているから、ちゃんと配慮はしておられたのかなと思いますけれども。それと、ガントリークレーンですけど、赤はだめだという話を聞いておりますけど、工業の活力からすると赤でもいいのかなと私の意見としてはそう思いますけど。まあ赤は赤でもいろんな赤があるんでしょうけど、活力を示すには赤でもいいのではないかなという具合に思ったんですけど、あの色はあんまりよくないんじゃないかなと思います。

委員：景観にも四季がありますので、いろんな、冬は白、夏は緑、そういうことも踏まえて色を考えてほうがいいのではないかと思います。四季で一回一回塗りなおすわけにはいかないから、そういうことを網羅したもので、一番適当な色を考えてほうがいいかなと思います。

委員：実を言うと、埋立地の海王町というところは色彩計画がたっているんです。土色のアースカラーで統一しようということで、新湊かまぼこや、市営住宅などがそれに統一しているはずなんです。あそこは電柱も立てていないはずですし、そこまで配慮しているんです、あの団地は。だから、景観を言うときは無電柱化ね、ひとつは。だからあっちのほうもできたら無電柱化にしておかないとだめだし。いくつかの問題点があると思うんですけど、予算の問題もあるだろうし。ただしっかり言うておくことは言うておかないとならないと。

委員長：その色は海王町を作るときに、文書に残っているのですか。

委員：残っています。

委員長：どうなんですか、事務局は把握されているのですか。

事務局：海竜町につきましては、みなとまちづくり方策にうたってあったかなということでございますが、実は金額の関係で無電柱化は困難かなと。たぶんできないであろうと。ただ色合いを、電信柱を今までのコンクリートのものでなくて、少し茶色系のもので、よく住宅地であるように考えていきたいと思っております。ただ無電柱化は難しい、無理であろうというようにございます。もうひとつは、地区計画という町並みをどうするかというものについても検討していきたいということでございます。色のついては、派手な色ではなくて、昔で言う日本風の茶色系ですかね、そういうふうなことにする必要があるだろうという形で計画を立てようとは思っております。以上でございます。

委員：無電柱化は、今は無理だとしても、将来また無電柱化にしたらいいと言ってやり直すのだったら、少し今ふんばってそういう具合にできないのですかね。またやり直すというのだったらそれ以上にお金がかかると思うんですよ。今富山のほうでちょっとしたところを無電柱化に一生懸命やっていますので、景観を考えたらその方がいいのかなと、ちょっとお金がかかっても少し踏ん張ったほうがいいのかなと、素人は思いますけど。

委員：ただお金がないのだったら、例えばメイン道路には入れなくて、裏に入れるとか、そういう工夫をしなければならないと思うんですね。だめだだめだといってつっぱねるだけではなくて裏道に入れておくとか、メインには入

れないとか方法はあると思うので、そこらへんをやっぱり考えながらやらないと、という思いでちょっと言ったんです。

委員： すいません、いらんことを言いますけど、水道工事でもこの間埋めたとしたらまた掘り返してやり直している、そういう感じになったらもったいないかなと思いますので。余計なことを言いますけど。

委員長： 確かにこれには基本的には望ましいのは無電柱ということがどこかに書いてあったようにも思うのですが、実際問題はどこもお金との関係で。考え方としてはいつも出てくる。それから他の、清水でも広島でもそうなのですが、基本的に大きな、落ち着いた白と青だとかアースカラーだとかということとでしといて、やはり地区ごとで特色、それを侵さない形で特色のものになっている感じですね。議論がね。だから他のところを排除するという意味の議論でなくていいと思うんですね。ここでの報告書を作るときにはいろいろな配慮をしたほうがいいのではないかなと思うのですけれど。何か感じたことは。

委員： そうですね、今日視察をしてなかなかイメージをつかみづらいところではありますが、先ほど委員がおっしゃったように、やはり緑が一番ポイントになるのかなという気がします。こちらに来るときにもあまりにも緑が少ないようなイメージが確かにありまして、植樹にしても苗木でも大きくなっていくわけですから、そういうところに配慮をして、結構車で通り過ぎると、実際には、歩いていると大きい木でもそんなに感じないところもありますから、車から見て植樹計画も考慮したところも、当然木の種類もそうですし、木の大きさもそうですし。そういうところを一度考えていただいたほうが。今日ぱっと見たところではそういうイメージですね。以上です。

委員長： どうもありがとうございました。では、お願いします。

委員： 今日見た場所から言ったら、色彩というのは一番苦手なところなんですけど。個人的な思いなんですけど、西側から立山連峰をバックに、うちの会社からも見られるのですが、例えばですが、途中に、今日見た角度ではないんですけど、木材会館というものがあるんですね、これが非常にじゃまなんですよ。色が。

委員長： 私もいつも気になるんです。あれは木材の色をイメージしたので

すかね。

委員：わからないですね。いないからですから、できたのが。まあ見る角度によっていろんな発見があると思いますけどね、今日行った限りでは、あのパークゴルフ場はびっくりしましたね。あの公園は大人の公園なんですかね。

委員長：あれは県の最初の指定管理者制度で運営をしている成功例じゃないですか。

港湾空港課長：あれは大人のためだけじゃないのですが、真ん中に丘になっていましたが、下のほうにまんまる広場ですとか、池があったり、子ども向けの遊具があったりしますので、そういった意味では家族で使っていただきたい。どちらかといえば地域の人々もさることながら、ある程度お客さんを集めるといったようなことでまとまったパークゴルフ場のコースもそれなりに整備していると。というようなことで公園としてもそうですし、指定管理者さんに管理してもらっている施設としてはかなり成功しているほうなのかなと県としては思っております。

委員：パークゴルフ場はほんとにきれいなところだなと思ってびっくりしました。パークゴルフをしている人はみんな日焼けしないように帽子をかぶって、私たちくらいになるとお日様がすごく気になるんですね。私はばあちゃんでもじいちゃんでも連れてきたいと思うんですけど、どれだけいれるのかなとまず思いました。見せてあげたいけれども、日陰がない。そして日陰だからといって、あそこのクラブハウスへ行ってなにか飲んで。だけどそんな人ばかりいないと。じゃああの上で海を見せてあげたいと思っても、これ何分いれるかなと思いました。私もあんまり陽が当たったらいやだし、傘もないし。でもあそこでなにかお弁当を開いて食べながら海を眺めさせてあげたいなと思ったときに、何もない。それこそ見ながら、景観がおかしくないようなもので、さっき言われた木があったほうがいいのか、外国みたいな素敵なおしゃれな何かとか、とんがり帽子の何かそういうものがあつたらいいのか。それこそ癒していくのか、元気が出るような、例えばハワイなんかに行ったら、真っ青な海に船があつて、そしてそこに写真を撮るときでもハワイの真っ赤な花をぱっと入れたら、その青がもっと引き立つなと思うんですね。でもその赤をいれたらあんまり奇抜だと思うし。あそこに行くとなにか癒されて気持ちいいと感じるようにすればいいのか、それとも元気が出てうれしいねというようにすればいい

のか、ひとつどちらがいいのかと私は考えたんですけど。確かに木があれば、その下で弁当を食べれば最高ですよ、あそこで。そういうところはめったにないし、新湊で一番高いところだとさっき聞いたので、こんなところみんな連れてきてあげたいわと思って。でもみんな知らないよ、これ。もったいないよ、そして。前にテレビを見ていたら、スコップーズの人たちがあそこで弾いておられたんです。これどこにあるのかなとずっと思っていたんです。それで、今日ここだと聞いて、こんないいところどうしてみんな知らないんだろうと思ったんです。車椅子でも上がっていけそうなところだったし。そういう感じでした。

委員：それこそ色彩の件で、先ほど申しましたように、四季を考えて色彩を考えるべきですし、あそこから景観を見たときに、色がどのようにすればよいかと思いますけれども、あその海のほうから見るのではなく、だいたい西のほうからと言いますか、私たちの住んでいるところから海王丸のほうへ来て眺めますもので、今度反対から見たときにどんな具合になるかなと思います。そうしたときに今委員がおっしゃっていましたが、あそのほうにも緑がたくさんあって、海王丸は海王バードパークのところは緑がありますけれども、あそこありませんので、やはり街なりなんなりあって、緑とアンバランスにならないような色を考えていくべきかなと思います。

委員長：どうもありがとうございました。どうぞ、お願いします。

委員：私も正直言って初めてあの場所を見たわけですけど、相対的にあの場所からですね、大橋を背に、対岸を眺めてみた場合に、そんなに違和感はなかったですね。そういう意味では割と同化されているのかなというふうな気がしました。それはやっぱり富山県は三方を山に囲まれて、西から東の方向を見る場合と、東から西を見る場合と、それから北から南、南から北を見る場合とで、それぞれ趣が違うわけですね、したがって、一概に同一、同系色の色で統一するというのはどうかなという気がしています。それとわれわれは企業に勤めておる人間でありますから、必然的にいろんな施設ですね、そういうものについてはやっぱり今後どういう色合いのものをしていけないといけなののかということは当然考えていかなければならない立場ではあります。正直言いまして、例えばこの国際ターミナルにあります大型クレーンですね、トランスファークレーン、塗装しなおすにしても1千万円以上かかるわけですね。したがってすぐに取り組むこともできないのかなと。先ほどおっしゃったように、時間をか

けて少しずつ全体的な景観を整えていくという方法が一番いいのではないかと思います。

委員：私も今日見てみてそんなに違和感は覚えなかったですけども、白を基調にして、海の青と、空の青、それと緑がちょっとあればいいのかなと思いました。あとは、先ほど皆さん言っておられましたけれども、見る方向で違うと思うので、この地区はちょっと優しい感じの色だけど、こっちは工業だからもうちょっと元気のある色というように少し変わっているほうが、これからやるんだったらいいかなと思います。元気の森公園で、バーベキューと花火大会を見るというイベントをやったのですが、あそこの上から海王丸の花火が本当にきれいに見えたので、日中の景観はもちろんなんですが、夜どんなふうに、真っ暗になっているというのも目立つし、橋がぴかぴかになっているというのもどうなのかなと、ちょっと思いました。

委員長：一通りご意見をいただいたわけなのですが、そんなに対立するようなものにはなっていないような感じがします。少しやっぱりまた今日のご意見をまとめてですね、今年時間をかけていろいろしてみたいと思います。また、景観についてはですね、県のサービスというか、景観を考えるときのものとして、今も有効なのかどうかかわからないのですが、景観アドバイザーという制度があるのを聞いております。これは早めに言えば専門家をよそから呼んで、意見もただで聞けるようですので、そういう勉強会も必要じゃないかなという感じがします。そういうことで、今日は第1回目で意見を出し合って、またそれをまとめて次回に出して、そういったいろいろな勉強になるようなものもセットしながら時間をかけて、年度末になるのかどうかわかりませんが、なんらかの方法でまとめていきたいと思いますので、また是非、四季、季節で違うだろうし、朝昼晩でも違うだろうし、見る方向でも違うだろうと思いますので、ぜひ日常生活の中でお考えください。それでまた意見を出していただきたいと思います。一応景観に関しては、こういうようにして、あと残りの時間は少ないですけども、次は海王丸の賑わいの問題をもうちょっと私ら自身で考えて、もうひとつ一步踏み出せないかというご意見がありました。これは東西埋立地の問題でありまして、新湊みなとまちづくり方策にでもですね、新湊あるいは射水市だけでこんなことを決められるのではなくて、これはやはり県の所有地、あるいは国も、全体が絡んでいる問題で、なかなか難しい面もあるのですが、いろいろな人がいろいろな形で考えて、ここはここでやっぱり意見というものを出してもいいのではないかというように思うんですね。しかし、いろいろ議

論をする前段階でやはり今日は県の課長さんも来られておられますので、この東西埋立地の交流拠点用地、海王丸パーク、この用地についての考え方というか、そういった点をまずはお教えいただいて、こんな考え方でいるというようなこと、それを受けて、また意見交換をしていきたいと。意見交換はここでもやるし、また、次回語りたいと思うのですが、ワーキングみたいな形で、報告書づくりの方向にいくか、これはまた次回。まずは課長さんのほうからお願いいたします。

港湾空港課長：海王丸パーク周辺の話ですが、もともとの土地が、新港の西埋立地ということで、ここは直轄さんの土砂処分場として造成されたものでありまして、基本的には国有地なんです。その国有地につきまして一部港湾関連用地だとか、土地対策住宅用地だとかそういったようなところについては、国有地を買い上げてそれぞれ例えば住宅用地ですと市のほうへ売却したり、あるいは漁業関係者に売却したりしている土地がございまして、その中にこういった交流厚生用地といいますか、今現在、広い駐車場になっているところについては県のほうでは港湾空港課が交流拠点用地というふうにして位置づけておりまして、県有地になっております。基本的にはそこについてはある程度賑わいを持たせたいと。公共施設だけではなくて、民間の活力も活用しながらレクリエーションだとか、そういったようなものを、幅広いものを想定して県有地にしているわけですし、ここは今現在新湊大橋がループになっているところのちょうど角になるわけですね、ループになっているところの東側で、橋が降りていくところの北側、橋の一角が今現在交流厚生用地ということで、県で持っているところで、とりあえず今は駐車場にしていますが、将来は、できれば県としてはある程度まとまった規模で開発してもらいたいといったような思いがありまして、そこを細かく仕切っているいろんな人が入ってくるのではなくて、ある程度規模の大きな施設が来ないかといったようなものは構想としては持っております。具体的な案はございません。それを中心にして、海王丸パークがあったり、野鳥園があったりというようなことで、周りについては緑地として全体を整備したいというふうな、大雑把な構想はございます。といったようなことで、前は日本海ミュージアム構想ということでいろんな複合施設だとか、ホテルだとか博物館、ミュージアムだとか、いろんなことも考えておったわけですけど、なかなか今の世の中そういったようなことができることもございませんし、どちらかというと、緑地のようなものを主体にして、その中の核として交流施設があればいいのかなといったようなイメージでおります。こんなようなことで、参考になるかどうかわかりませんけれど。

委員長：　どうもありがとうございました。今おっしゃられたことを前提に、一番新しいものでは、最初に言った新湊みなとまちづくり方策の中での、大橋ができるまでの賑わい、まちづくりについてまとめたものが、この第1段階のもの、それから大橋以後の賑わい等で、賑わいのある交流空間としていろいろなアイデアが書いてあります。いろいろな制約もあろうかと思うんですけども、特に今の段階はハードといいますか、建物をこれだけ作らないと物事が始まらないということだとまったく動けないので、むしろ前から出ておりますように、今あるもので、もうちょっと賑わいに近づく工夫というかそういったものにも知恵を絞る必要があるのではないかなと思うわけです。この戦略会議でいろいろ意見を出し合って、今年度またそういうものについてひとつの戦略会議としてのまとめができれば、それを各方面に渡して、援助を求めることも可能ではないかなと思うのです。今年度の方針としてこの賑わいのほうに私たちの知恵を絞る方法で動く、ということと、景観の問題で取り組んでいくと。やり方については次回事務局と相談して、こんな方向でどうかというものをしたいのですが、こういう賑わいのことについての議論の持っていく方としてはいかがなのではないかな。これはこの前の皆さんから出たものを受けて返しているものなんです。そんな考えでいる。そういうものを進めるとき、必要に応じて今営業している人の意見も聞く必要が出てくると思いますね。悩みだとか、こういう形があればもうちょっといいんじゃないかとか、あるいはこのメンバー及び関連の団体が、イベントだとかいろいろやられているわけですから、もうちょっとこういうことでお互いの応援体制が得られれば、もっと盛り上げられるのではないかなとか、あるいは、新しい試みでの提案でもいい。例えば、この前出た国際交流のもので、パキスタンか、角をつき合わせるだけではなく、海王丸パークで、イベントで交流会などの企画もやって、そういう形でいろいろな議論に入っていくというのも戦略的なものではないかなとの意見も出ましたし、そういう関係者とのいろいろな意見交換も必要になってくる場合もあろうかと思います。今年度の進め方になると思うのですが。

委員：　海王丸のほうは、歩いてばかりいて、店がばらばらになっているので続かないというか、疲れると聞いたのですが、私はこの前東京に行ってきて、につぼん丸に寄港してくれといわれたのですが、じゃあどこへ行くというと五箇山やおわらを見に行くと言っておられましたけど、そんなよそのところばかり言わないで、この新湊にどうしたらお金を落としたりいいかを考えようよって。そんな遠いところまでわざわざ行かなくても、どこがいいかといっ

たときに、本当にないんですね。300人という人が来るというのに、300人の人をどこに泊めて楽しくさせてあげるかというところがないんですね。そしたら、海王丸のあそこをもっと大きな、私、和倉温泉に行くときに、提灯つけて太鼓をたたいて見せてくれるところがあるんですね。ここはたくさん人が入っているなと思って、ああいうものをひとつばらばらにしないで、このマリンショップの人も私ちょっと知った人だから、よく話をして仲良しなんですが、やっぱり中に入ってみたらなんかいろいろ置いてありますが、お客さんがぜんぜん来ないと言っていますし、ちょっと雨が降ったらもうそこから流れないんですね、家に帰ってしまって。聞いたたらこんなにたくさん毎年海王丸パークに来ているのに、新湊はなんてお金が落ちないところだなと思って、私がお金を出してもいいから看板を掲げさせてと言ったんです、新湊へ流れるように。私も商売をしているから、あなたもちょっとと言ったら、ここはどこやらの地面でそういうものは一切そういう広告はだめだと言われるし、こんなにすし屋も山ほどあるのに、楽しく、きれいだけでも、なにか活気がなく見えたんです。例えばすし屋さんの大きいポスターがあって、順番にこんな店がいっぱいありますよというふうに、お金が足りないのならお金を出してもらえばいいのにと、私が出してでもここに書いたら、何十万人の人が来るのに、そのうち何人かはうちの店に来るのではないかという気持ちになったんですけど。だからばらばらではなくて、大きな入れ物をひとつ作って、全部そこに入ってもらって街みたいにな、まあお金のことを言われると私は素人なのでわからないのですが、どこにでもそういうものがあるのに、どうして新湊にはないのでしょいか。300人も来るのに、にっぽん丸を誘致してもよそへ紹介するのももったいないかと、新湊にできる方法は何かないかなと思ってずっと考えていたんですけど。せっかくみんな海王丸のほうで商売していらっしゃるのに、そこで雨が降っても屋根続きだったら行くのですが、ちょっと雨にぬれるとなるとすぐ家に帰ろうとなるんですね。せっかく大きな見るところがあるので、あそこまで屋根になればいいなとちょっと思ったんです。

委員長：それは基本的には、この方策に今言われたのは集客機能施設、多目的、体験型宿泊施設、温浴施設、冬季集客対応だとか、レストラン、オープンカフェ、魚介類やお土産、朝市の開催など、そういうような、基本的には載っているわけです。だから、それがすぐに建てばいいのですが、それと並行して、現在の悩みを少しでもね、年間80万人くらい来ているというんですけど、少しでもお金が落ちるような方法がもっとこの建物ができるまではぜったいだめだといったらだめになってしまうだろうと思うし、現在のところでちょっと

でもアイデアというか、何か出てこれば、とは思うのですね。並行して進めないといけないと思うのですけど。

委員：でもそれだけの人数が来ているのだったらせめて新湊のまちの人たちがみんなお金をちょっとずつ出して、看板だけでもずら一っと思えるところに出してほしいなと。

委員長：そういうアイデアもね。要するにどんどん議論しようということでもいいですね。他にご意見は。

委員：いつも言っていますが、西漁港の今までの問屋ががら一っとしていますが、あれは本当にもったいないと思うんですね。あれを何とか利用させてもらいたいと思うんですね。旧漁港、昔の問屋ですね。あそこに建物が余っているんですよ。昔そこで魚の売買があったところで。

委員：でもあそこは1階を貸してあげているんだって。網を干すのに。2階は空いているみたいなんですけど。もったいないですね。

委員：使い道のことはレトロな建物なので、横浜の赤レンガみたいな。

委員：ああいうものも有効利用できればいいんじゃないかと。家がそばだから犬の散歩をするときにもったいないなと思いつながら歩いています。

委員：私はあの後ろに民宿でも来ればいいのにとおもいます。10軒でも来れば、新湊にそんなないもんだから、氷見にばかりみんな行くし、私あそこから立山を観光したらこれはなんてすばらしいんだと思って。だから雨晴なんかもすばらしいといわれますが、新湊はなおさらいいわと思って。せめて10軒ほどだけでも民宿が来て集客すれば。

委員長：今おっしゃったのは海王丸パークだけではなくて、内川沿い、市街のほうの賑わいもあると思うんですね。それと内川中心の賑わいをどういうものにしていくかというのは現在、富山県内で、環水公園とこの内川と2つだけ県の指定で検討が進められて、ちょうど7月か8月に報告書が出ますので、内川のほうで出たものもここに持ってきてですね、またそれとすり合わせしながら海王丸パークの賑わいという検討に入ると現実的になってくるんじゃない

かなと。だから次回の設定の仕方は非常にいろいろな資料が出てくると思いますよ。今おっしゃったのは、内川のところも深刻な問題ですよ。お店屋さん、どうしようかということ、それから内川の散歩コース、それからお寺、神社、仏閣の存続の問題もあるわけですね。だからそれを幸い県のほうで指定をされて、市もこちらの事務局のほうも関わって、かなり私はいいものができるんじゃないかなと思うので、それを参考にしながらこの戦略会議で海王丸パークの賑わいに結びつけるように検討すれば、あんまりちぐはぐにはならないと思うんですね。今おっしゃったのは同じように内川のほうでもものすごく大事で。漁協も入っていますからね。

委員： 委員長いいですか。事務局に聞きたいんですけども、以前、内川沿いでレンタルサイクルを試行的にされていたと思うのですが、どんな様な感じだったのですか。

事務局： 水辺のまち新湊のほうで、ちょっとイベントがありまして、その際にレンタルサイクルを実施しましたがPR不足もありまして、利用につきましてはゼロでした。やりましたPR不足と時期的に秋でしたので、寒い日だったこともありまして利用がなかったのかと思います。また、事前にサイクリングのマップとかも作ってPRすれば利用があったのかと思うのですが、今回はそういったような実情でございます。

委員： それともう1点事務局にお聞きしたいのですが、以前この会議の中で古民家を利用してくださいと、3軒か4軒の、応募状況はどのようなものだったのでしょうか。

事務局： 詳しい数字は、今はわかりませんが、去年の5月からオープンしまして、1年間で当初の予想の利用よりも3倍近くになっておりまして、中にはリピーターも増えてきておりまして、確か7組か8組の人たちがリピーターとして来ておられます。また、その伝わり方ですが、口コミが多くてびっくりしました。

委員： それに関連しまして誘導看板はいつごろできるのでしょうか。

事務局： 昨年ですか、戦略会議のほうから提案いただきました案内表示板のことですが、私どもまちづくり交付金事業の中で取り組んでおりまして、平

成20年度、今年度でございますが、一部着工したいと思っております。まだ現在は、工事は発注しておりませんが、今年度中に少しずつやっていこうと思っております。

委員：私がいつも言っておるのですが、すばらしい景観があったら、そこをちゃんと日本あるいは世界から見ていて、いろいろな人が来てくれるよと。この前も言ったかもしれませんが、矢道湖のふちにティファニーの美術館があるんですよ。世界のね。それから、ついこの間、琵琶湖のふちの守山市に佐川急便の美術館があるんです。そこは佐川の研修所からサッカー場から美術館、全部来ているんですね。そういうものが向こうから全部お金を出してくるんですよ。だから私どもは慌てなくても着々と都市計画、すばらしいものを作ったらある日来るよと。それが実はどーっと広がるということなんです。あんまり焦る必要はないんです。堂々とやっていけばこんなすばらしいところはないのだから。私はそう思っています。今は下積みだと思えばいい。だけども、まちがってはいけないよと、やることを。やることを間違ったら絶対だめなんです。それを間違わないように手を打つということが今大事だと。

委員：先ほどの景観の話とも重なるかもしれないですけど、あとお金をかけずに、今あるものを利用してということで、それは内川の空き家の話もそうですけど、外から人に来てもらおうと、それはあれですけど、前にコスモスプロジェクトというものをやったんですね。今ちょうど大橋の降りてくるところの真下ですね、今また元通りになっていますけれど、そこ全部コスモス畑になったんです。そのときは新湊市でしたけど、新湊の市民が自分のところで育ててきたコスモスの苗をそこへ持ってきて、それぞれが植えたという、あれは3年くらい続きましたかね、というやつで、まちの人間自身がそこへ足を運ぶようになったという。まあいろいろ草むしりとかしないといけないですから、秋に咲かせるまで。それで、その場所が自分の場所だと。そして、海王丸パークの近くが自分の好きな場所、市民のみんながそう思える場所にしていこうというのがひとつ。自分のところのまちは自分で作るという意識を育てたいというのがひとつ。当時そういうイベントがあったんです。今は大橋を作るということで使えなくなったのですが、この後もし落ち着いた段階で、またそういうものがあれば色彩的にも色分けもできるだろうし。外にアピールするためにはやっぱり射水市なら射水市に大きくなったけれども、住んでいる人たちがこの場所、東西を好きにならないことには、人を呼んで来られないのかなというのがあります。そういうこともひとつありかなと。

委員長： 実践例があるわけですね。ちょうど時間が過ぎてしまったものですから、これで一応閉じたいと思うのですが、最後に国土交通省のほうから。

事務局： すいません、委員長、その他で最後にひとつ報告がございますのでよろしいでしょうか。

まちづくり交付金の報告をしたいと思うのですが、新湊地区におきまして、平成17年度から20年度、20年が最終年度になります、4ヵ年事業でまちづくり交付金を利用してやっております。海王丸パークに観光客が年間80万人を超えているということから、先ほどの話にも出ました、内川に何か誘導できないかということで事業を行っております。次の図面を見ていただくと、赤で塗ってあるところが210ヘクタール、総事業費が9億4千3百万ということで、緑の点線が見えますが、これは観光船のルートであります。また戻りまして、どんな事業をやっておりますかといいますと、道路ということで書いてありますが、二の丸橋の整備、それから藤見橋、中新橋、中新橋はこの前下部工が終わりました。あと、内川の遊歩道整備をやっております。あとポケットパークが2箇所、駐車場整備が3箇所、それと先ほどもお話がありました案内表示板、いいかげんな案内板があるということではないのですが、きちんとした案内板にしたいということで、20年度で整備を行う。それから川の駅の整備ということで、今現在工事の発注をしております。また、中には曳山展示館も含んでおります。それと、下のほうの事業の内容によって違うのですが、展示販売コーナーということで設置をしております。下の事業は基幹事業それと市の提案事業ということでわけてありますが、曳山展示館の補助、それから八幡宮の祭りのときの栈敷席の設置や、今年もありましたが獅子舞競演会の開催、それから防波堤の壁画の設置だとか、今現在も行っておりますが山王町の公園の整備、トイレも設置したりということであります。先ほども同じようなことを言いましたけれども、川の駅の展示販売コーナーの設置、一番大事なのは最終年ですので、事後評価を行っていきたいということであります。引き続き来年度、21年度以降になるのですが、今現在国のほうへ要望、重点要望ということで提出しているところであります。全体として9億4380万円という予定となっております。以上です。

委員長： ありがとうございます。またこれを参考にして次回に備えてください。じゃあなんか一言。

企画調整課長：伏木富山港湾事務所企画調整課の課長をしております。ちょっと来たばかりで勉強不足であれなんですけども、全国のいろいろなところでまちづくりに関する取り組みをやっていると思いますので、その辺を調べて、交流拠点用地の活用し方やよい事例がないかどうかを含めて、次回までにちょっと勉強してきたいと思います。

委員長：よろしくお願いします。それではこれで第10回新湊みなとまちづくり戦略会議を閉会したいと思います。アドバイザーの方、委員の方、どうもありがとうございました。それでは事務局にお返しいたします。

企画調整係長：つい先週まで主塔の上部を工事していたんですけど、それに関して取りまとめた資料がございますので、今お配りしますので、帰られてからでもご覧いただければと思います。

委員長：なにかちょっとでも説明があれば。ポイントだけ。

企画調整係長：今主径間というところで、門型になっているところがあるんですけど、そこのところと、これからこっち側とであるんですけど、そこに関して工事について取りまとめたものです。工場での製作の様子だとか、架設したときの状況だとか、そういったものを写真等で載せてあります。

委員長：ではまたこれを読んでおいてください。どうもありがとうございました。

事務局：どうもありがとうございました。次回の会議につきましては、別途またご案内を差し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。